

教材名「選択社会科 都道府県カルタをつくろう」

目 標

- ・ 地図で読み取った内容を実際の写真で確認することによって、地図を読解する楽しみを味わう。
- ・ 地図を読み取り、地形などを想像する力を身につける。

コンピュータを活用する利点

山地や平野の分布、都市部と農村部の分布などの知識として認識はできるが実感しにくい事柄について、上空からの航空写真を操作することで分かりやすく、地図への興味や関心を高めることができる。また、国内・世界を問わず、地理的分野への興味・関心を喚起することができる。

授業の流れ

- ・ 地理的分野の復習問題（問題演習）を行う。 15分

- ・ 地図帳を使い都道府県の特徴（人口・面積・主な河川や山脈・特産品など）を調査する
前時から継続 10分

- ・ 「Google Earth」を使用し、調べている都道府県を航空写真から確認させる。 20分

- ・ 「google earth」の航空写真と地図とを見比べ、航空写真と地図との整合性を確認させる。 5分

ICT活用場面

「Google Earth」(<http://earth.google.co.jp/>) を使い

実際の地形を自由に確認させることで地理に対する興味や関心を高め、地図がいかに正確であるか、いかに緻密であるかを実感させることに気を配った。地図帳をじっくりと眺め、観察・学習させた後に調べた地域を航空写真で確認することで、より具体的に現実的な感覚を得られるよう工夫した。

生徒達はコンピュータ教室での授業に大きな期待感を持っており、普段よりも活発に発言する傾向が強い。そのため、私語や教師の指示以外の内容を行うことがないよう、前時間から注意喚起を行って臨んだ。

成果と課題

「Google Earth」の画面を立ち上げ、操作を行う時には、生徒達から驚きの声が上がった。地図で調べた町や山を航空写真と照合することで、地図に対する興味や関心を高めることができたと考えている。確認ができた後は、生徒達に自由に操作させて、身近な伊丹市や外国の都市などを調べる時間とした。課題としては、最終的に航空写真と地図との整合性についてまとめが十分ではなかったと感じている。また、生徒達の好奇心をより刺激する提示の仕方について、今後も工夫が必要であると感じた。

ICT活用環境等

使用周辺機器	デスクトップパソコン 21台
使用ソフト名	「Internet Explorer」「Google Earth」
使用教室	コンピュータ教室

